
小さな花

サース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな花

【Nコード】

N0597G

【作者名】

サース

【あらすじ】

小さなお花が、悪夢を体験してしまうお話。

とある川辺に、小さな花が咲いておりました。

ある日、小さな花は、夢を見ました。

干上がった湖で、魚が呼吸困難
砂まみれになって干からびていく
苦しい、苦しい

小さな花は、ぞつとして、目をさましました。

僕は、魚なんかじゃなくて、良かった
川の近くに生まれて、良かった

そう思うと、ホツと胸をなでおろしたのです。

次の日、また、小さな花は、夢を見ました。

光に向かつて、虫が一直線
途端に、火に包まれます
熱い、熱い

小さな花は、ぞつとして、目をさましました。

僕は、虫なんかじゃなくて、良かった
水の近くに生まれて、良かった

そう思うと、ホッと胸をなでおろしたのです。

そのまた、次の日。

今日は、天気が悪い様。

雨が、バケツを引っくり返したように、降っています。

ああ、干からびる事も、燃えてしまう事も無いなあ

小さな花は、安心しました。

夢の恐怖を忘れて、にっこりです。

しばらくすると、川が、すぐそこまで迫ってきています。

空ばかり見ていて、小さな花が気付くのは、遅すぎました。

ぴちゃぴちゃ

逃げなければ、飲み込まれる…！

しかし、自分が生まれてから、しっかり張った根は、ビクともしません。

そうこうしている間に、水は、花の茎を、葉を、ついに、小さな花全てを飲み込んでしまいました。

がぼがぼ… 苦しい！

花びらは、疾うに流れに千切られて、どこかへ行ってしまうました。
小さくても、自分の花びら。

痛い…！

痛みと息苦しさで意識が朦朧としてきた頃、声が聞こえてきました。

私は、花なんかじゃなくて、良かった
エラがあって、良かった

僕は、花なんかじゃなくて、良かった
羽根があって、良かった

小さな花は、もう、目をさます事はありませんでした。

今日は、とっても、いいお天気です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0597g/>

小さな花

2010年10月21日22時35分発行